

教員名	田村 智英子 (TAMURA Chieko)
所 属	人間文化研究科ライフサイエンス専攻特設遺伝カウンセリングコース
学 位	Sc.M., C.G.C (USA)
職 名	助教授
URL / E-mail	http://www.dc.ocha.ac.jp/lifescience/GC/ / c_tamura@t3.rim.or.jp

◆研究キーワード

遺伝カウンセリング／遺伝子診断／心理社会的遺伝カウンセリング (psychosocial genetic counseling)

◆主要業績

総数 (48) 件

- (1) 田村智英子：あたらしい遺伝カウンセリングのあり方を考える in 水谷修紀・吉田雅幸監修『遺伝診療をとりまく社会』、ブレーン出版 2007
- (2) 田村智英子 (分担翻訳) in 岩間毅夫・数間恵子 監訳 『家系内の大腸がんとその遺伝』、中山書店 2007
- (3) 田村智英子：プリオン病患者家族の方々へのカウンセリング in 『プリオン病と遅発性ウイルス感染症—最新の基礎・臨床研究—』(日本臨床 8月号) 日本臨床社 2007

◆研究内容

(1) 遺伝カウンセラー養成教育の研究 (文部科学省科学技術振興調整費)：学生からのフィードバックも活かしながら、非医師専門職遺伝カウンセラー養成のカリキュラム研究および遺伝カウンセラー養成教育のモデル構築を目指して研究実施。さらに、我が国の遺伝医療における遺伝カウンセラーの活躍の可能性についての将来検討実施。

(2) プリオン病の患者・家族に対する支援システムの研究 (厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班」研究)：希少難病であるクロイツフェルト・ヤコブ病 (その 10%は遺伝性) を始めとするプリオン病の患者、家族の心理支援体制のあり方を検討。

(3) 遺伝カウンセリング臨床実践：東京医科歯科大学遺伝診療外来および木場公園クリニック遺伝カウンセリング部門において、週 1.5 日程度の頻度で、産科、小児科、成人の遺伝科領域の遺伝カウンセリングに従事。

(4) 遺伝カウンセリングの教育啓発活動：人々における遺伝や遺伝性疾患に対する理解を高め、遺伝カウンセリングについて知っていただく目的で、年間を通して、医療者を対象とした遺伝医療関連セミナーや多数の当事者団体 (患者家族会) の会合、および、一般市民団体を対象とした公開講座等において、遺伝カウンセリングや遺伝子診断の考え方について教育講演活動を活発に実施。

(5) 国際的な遺伝カウンセリングのあり方の研究：欧米やアジア各国の遺伝カウンセリング従事者との会議などを通じて、国際的な遺伝カウンセリングのあり方の検討実施。

◆教育内容

米国には約 2000 人の非医師専門職の遺伝カウンセラーが存在するが、日本の遺伝カウンセリングは長年医師によって担われてきたため、非医師遺伝カウンセラーの養成は始まったばかりである。我が国における最初の非医師遺伝カウンセラーであり、国内で唯一米国の遺伝カウンセラーとしての正規認定資格を有する田村は、本学において他の教員と協力し、外部の複数の医療機関とも連携して、遺伝カウンセラーとなる人材を養成すべく教育研究と実践を重ねている。

田村の担当としてはまず、新しい学際的な学問領域としての「遺伝カウンセリング学」を主軸にすえ、日本において学生たちがこれからの遺伝カウンセリング分野をリードする人材となり遺伝カウンセリングとは何かということについて洞察力に富む議論ができるように、国や制度、職種、診療科領域や立場の違いによって様々に異なるとらえ方や概念の広がりについて学生が考える機会を提供している。

さらに田村は、学生たちが他の授業や自己学習にて修得した遺伝医学的知識と心理カウンセリングの理論や技術を、有機的に統合して遺伝カウンセリング実践に結びつけるための実践的な理論と技術に焦点を当てて指導している。中でも、遺伝カウンセリングの心理社会的側面については多くの時間を割いて、その理論的な背景と実践応用的なスキルの教育に力を入れている。

また、田村は、日本ではほとんど知られていない遺伝カウンセリング研究とそのための研究方法論についても学生に紹介、学生が今後日本において優れた遺伝カウンセリング研究を実施できるようになることを目指して指導している。

◆Research Pursuits

One of the major themes of my research is to consider the better genetic counseling practice and the system in Japan. I have investigated different systems in several countries. I have gathered opinions from Japanese genetic counseling providers (mostly physicians). Actual and potential clients (patients and Families) are also interviewed to understand their needs and expectations.

How to train genetic counseling providers is another important area of my research. We have been trying to figure out the model of the master level of the genetic counseling training graduate program.

I have also been a member of the prion disease research group, where I have been trying to establish the family support system in Japan, especially from counseling point of view.

Besides research and educational activities, I have a couple of part time clinical positions to provide genetic counseling practices in many areas, including prenatal, pediatric, and adult genetics. I have been seeing many patients and families, and this experience always enriches my educational activities.

◆Educational Pursuits

Since genetic counseling has been primarily conducted by physicians in Japan, training non-MD master level genetic counselors is a very new thing. With other staff at our school, as well as other opinion leaders of the field of genetics medicine, I have played the major educational role at our newly established genetic counseling graduate program, as I am the Japan's first non-MD genetic counselor, who was formally trained in the US. (Currently, I am the only person in Japan who holds the American certificate of genetic counselor.)

I have taught our students the depth and the variety of the concept of genetic counseling so that they will be able to develop their own future visions.

Our students will also learn how to integrate genetics information provision and psychological counseling skills to provide genetic counseling practices. I have been focusing on psychosocial aspects of genetic counseling. Students will learn theory-oriented and practice-based skills.

Research methodology is another important area that I have been teaching. I have introduced major articles of former genetic counseling research studies so that our students will conduct good research activities in the future.

◆共同研究例

日本筋ジストロフィー協会会員を対象とした遺伝子診断等に関する意識調査

◆共同研究可能テーマ

共同研究としては、遺伝医療従事者や当事者団体と協力して、遺伝医療制度のあり方や患者・家族の期待やニーズの調査が可能。遺伝子診断実施企業との協力により、情報提供ツールの開発なども可能である。

◆将来の研究計画・研究の展望

我が国では学際領域としての遺伝カウンセリング研究はまだあまり知られていないが、優れた遺伝カウンセリングサービスを提供するためには、研究の充実による当該分野の発展が必須である。諸外国の遺伝カウンセリング研究の現状を積極的に紹介しつつ、日本の遺伝カウンセリング研究の基礎を築くことは、本分野の先駆的立場にある私の使命のひとつであると考えている。具体的にはたとえば、遺伝医療制度調査、来談者の期待や要望調査、遺伝カウンセリングの成果やプロセス、方法論の研究、人材養成研究、生命倫理的側面や法制度や健康保険・福祉制度などの研究等が考えられる。今後新たな研究課題も随時見出ししていきたい。また、研究実施にあたっては、最終目標は患者、家族に対して優れた臨床実践を提供することにあることを念頭におき、そのために意義のある研究に重点を置いて研究を推進していきたい。特に、遺伝カウンセリングの心理的、社会的側面に注目した研究は欠かせないと考えている。

◆受験生等へのメッセージ

遺伝カウンセリングは、充実した医学的知識や心理カウンセリング技術が必要な学際的分野であり、加えて、患者、家族に提供する最新情報を得るためには英語力も必須です。日本における専門職遺伝カウンセラー養成は始まったばかりでまだ混沌としている部分もありますが、新しい分野を築いていく醍醐味を味わいたいという気概のある方、そして心理援助職としての精神的な強さと繊細さを併せ持ち、自身や他者に対する深い洞察力と幅広い視野を持つ方々に、ぜひチャレンジしていただきたいと思います。皆様とともに、日本の遺伝カウンセリング分野を発展させるために力を尽くしていきたいと思っています。